

日本ロレンス協会 第55回大会報告

今年度は6月22日（土）に、緑ゆたかな美しい甲南大学岡本キャンパスにおいて、日本ロレンス協会第55回大会が開催されました（ハイブリッド開催）。



<https://www.konan-u.ac.jp/life/campus/>

石原浩澄会長による「開会の辞」で本大会は幕を開けました。総合司会は開催校委員の岩井学氏です。



研究発表

二つの研究発表がありました。田部井世志子氏の司会のもと、大江公樹氏の『白孔雀』をめぐる発表からスタートしました。『白孔雀』が有する絵画性と「一人称の語り」との関係性を明らかにすることにより、新たな角度から作品を論じた発表で、フロアとの活発な議論が行われました。



次は、近藤康裕氏の発表です。高村峰生氏が司会を務められました。初期草稿から最終稿への改稿の跡をたどり、『恋する女たち』のセクシュアリティ描写の評価を再考する、密度が高く刺激的な議論が展開されました





シンポジウム

午後の後半はシンポジウム、「日本における初期のロレンス受容をめぐって」です。3人の講師によるが圧巻の発表が続き、活発な質疑応答や意見交換が行われました。21世紀の今、改めてロレンス研究の意義を深く問うシンポジウムとなり、盛り上がりました。



石原 浩澄会長



浅井 雅志氏



新井 英永氏



* * *

総会では、コロナ禍の難局を乗り越え、6年の長きに渡り事務局の運営に尽力された鳥飼真人会計担当より会計報告がありました。鳥飼真人氏は今大会で任期満了です。





木下誠副会長の「閉会の辞」で閉幕となりました。閉会の後、数年ぶりの懇親会が学内で行われ、対面での対話や議論の喜びをかみしめました。和やかで有意義な懇親会でした。



開催校委員の岩井学氏をはじめとする甲南大学の皆様のおかげで、第55回大会は成功裏に終了いたしました。



皆様、本当にありがとうございました。次年度の日本ロレンス協会第56回大会は、國學院大學（東京都渋谷区）で6月中旬ごろに開催される予定です。大会会場の國學院大學でお会いしましょう。